

発行部門 ISO事務局	環境ニュース	2007年1月29日(月)発行 第三十一号(1ページ)
<p><b>* 環境クイズ * 自然クイズ</b></p> <p>問題1 次のうち環境省のレッドリストの『絶滅危惧種』に指定されているのは？ ①ニホンオオカミ      ②トキ      ③オガサワラオオコウモリ</p> <p>問題2 日本の国土の67%が森林地帯です。人工林は、そのうち、約何%を占めているでしょうか？ ①約16%      ②約41%      ③約62%</p> <p>問題3 インドネシアの違法伐採の木材の割合は？ ①10%      ②25%      ③50%</p> <p>問題4 1950年に『文化財保護法』を制定するきっかけになった出来事は？ ①金閣寺焼失      ②法隆寺金堂壁画火災      ③室生寺台風被害</p> <p>問題5 最も高次の消費者はどれか？ ①ミミズ      ②トカゲ      ③トンビ</p> <p>問題6 1600年から現在までで、絶滅した哺乳類種の数、野生絶滅を含めていくつ？ ①30種      ②78種      ③200種</p> <p>問題7 ビオトープの発祥地は？ ①イギリス      ②アメリカ      ③ドイツ</p> <p>問題8 琵琶湖名産はどれでしょう？ ①鮎寿司      ②鱒寿司      ③柿の葉寿司</p> <p>問題9 次のうち世界遺産に登録されていないのはどれですか？ ①英国・ロンドン塔      ②アメリカ・自由の女神像      ③日本・富士山</p> <p>問題10 1996年に野生動物を原告に『自然の権利』を訴えた訴訟がありました。その原告とは？ ①ムツゴロウ      ②ノネズミ      ③アマミノクロウサギ</p> <p>問題11 日本の国立公園の総面積は日本の国土面積の何%？ ①約1.2%      ②約5.4%      ③約11.7%</p>		
<p><b>* コンプライアンスと不二家問題 *</b></p> <p>大手菓子メーカー、不二家が埼玉工場で期限切れ牛乳を使用したシュークリームを製造出荷したことが新聞紙上で報道されたのは、1月11日でした。コンプライアンスにもとる企業としてあってはならないこの事実が把握されたのは、社内改善プロジェクトチームの調査でした。</p> <p>このほかにも問題を起こした担当者は、約2年前に期限切れの卵を使ってカスタードを作った事があるとの事。更に、期限切れのリンゴの加工品をアップルパイに使ったり、食品衛生法(*1)の規定を10倍程度上回る細菌数を検出した洋菓子を出荷したことも新たに判明した。</p> <p>同社の生菓子事業は年商の3割を占めていますが、主力商品はスーパーやコンビニで売られるチョコレートやビスケットです。生菓子部門は4年連続の赤字。全体で昨年3月期は18億円の連結最終赤字に転落。現場のあせる気持ちは分からないわけではありませんが、食品企業にしてはあまりにも脇が甘かったと</p>		

発行部門 ISO事務局	環境ニュース	2007年1月29日(月)発行 第三十一号(2ページ)
<p>云わねばなりません。</p> <p>1995年にも販売した洋菓子商品が9人の食中毒問題を起こしたのですが、これを公表していなかった。組織ぐるみの欠陥企業と言われてもしかたがありません。</p> <p>更に、1月22日の夕刊報道では『18件の消費期限切れ原材料の使用などを明らかにした15日以降も、菓子商品に虫が混入していた事例などが次々に発覚』『2006年10月、大阪府の泉佐野工場で消費期限より一日長く表示したシュークリーム約14,000個を出荷していたことが発覚』。これは不二家の現場のずさんな管理問題ではなく、組織ぐるみの上から下まで実に“甘い”体質の会社だということ以外のなにものでもありません。</p> <p>不二家の昨年3月期の連結売上高は848億円、従業員1323人。全国に707のフランチャイズ(FC)洋菓店。この人達は生活をかけて勤務をし、生活をかけて店を運営しています。ひとたびコンプライアンスに反する行為があれば食品企業だけに、経営危機という事態に陥ることもあると誰もが気付いていたはずですが。従業員、FC店の人達は企業が潰れれば自分たちが路頭に迷うことは十分すぎるほど知っていたはずですが。</p> <p>問題を起こしたのは売上構成比3割の洋菓子部門。にもかかわらず約5割を占める菓子部門までスーパー、コンビニから取引停止があいついでいます。1月16日の新聞報道では、1日1億円減収、FC店への休業補償は1週間に1億円以上ということです。この内容ですめばいいのですが、この後社内調査によってずさんな管理が明るみに出ると、取引先の取引停止期間は長くなり、経営危機が現実化します。</p> <p>雪印乳業が世間を騒がせたのは7年前の集団食中毒事故。停電で原料の脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が増殖し毒素が発生したことが原因でした。2年前には子会社が牛肉偽造事件を起こしたことも重なって、同社は従業員を削減せざる得なくなりました。</p> <p>ある新聞の社説では『食品企業ではなによりも品質管理こそ命であるという雪印乳業の教訓を不二家は学んでいなかった。同族経営で組織の緩みが指摘されているが安全は守らなければならない』『不二家は1910年創業の老舗だ。人気キャラクターと外食レストランなどの展開で成長してきた。だがそうした成功体験が慣れと無責任さを広げることになったのではないか』『子供達は悲しんでいる。春先は洋菓子の需要が高まる。おいしくて安心して食べられるお菓子を作るため、早急に再発防止策を決め実行しなければならない』。</p> <p>不二家は創業以来、創業者藤井家以外から社長は出ていなかったのですが、1月22日、始めて非創業者の社長が就任しました。同時に外部有識者による改革委員会を設置しました。この二つで創業以来、ほぼ一世紀に及び権力の世襲でよどんだ社内の空気や体質を一新することができればよいでしょうが。</p> <p>問題は、不二家社内にとりだして優秀な管理・監督者がいるかです。立派な考え方をもち、高い能力を持って入社した人でも、長く保守的な職場につかかってしまうと革新的な考え方や正義感、それに能力さえも錆びていきます。職場にモラルと正義感のあるしっかりした管理者、監督者がいれば、そのグループがコンプライアンスにもとるようなことはしなかったと思います。</p> <p>組織は魚と同じで、頭から腐るといわれます。不二家も頭から腐り始めていたのでしょうか。しかし、食品企業としてあるまじき行為をしたのはトップではなく現場です。現場の人達はそんな行為が自分たちを路頭に迷わせる結果になるかも知れないという危機感を持っていなかったのでしょうか。悪いことをする前に、家族の顔がちらつかなかったのでしょうか。</p> <p>不二家の組織ぐるみのずさんな管理は、新聞報道では社内改善委員会が指摘したことになっていますが、その発端は現場の出荷を担当する人の社内通報ではないかと思われています。その通報者は、自分の生活がかかっている正社員ではなかったのではないのでしょうか。中立的な立場にあるパートか派遣社員の人だったような気がします。正社員であれば、まだぬるま湯につかかっていない、多分若い人でしょうか。</p> <p>このことが当たっているのであれば、現場改善は若手社員、パート従業員を主役にして行った方がいいです。慣れ合いという垢がしみついた管理職や監督職がやるよりはるかましです。</p> <p>確かに組織は頭から腐るのでしたが、不二家の場合は現場の意識改革教育と躰を軸とする5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底がまっさきに行わなければなりません。</p>		

発行部門 ISO事務局	環境ニュース	2007年1月29日(月)発行 第三十一号(3ページ)
<p>* 1: 食品衛生法とは、日本において飲食によって生じる危険の発生を防止するための法律である。食品と添加物と器具容器の規格・表示・検査などの原則を定めている。昭和22年12月制定され、昭和23年1月1日から施行された。しかしながら、雪印集団食中毒事件やBSE問題の発生とそれに対する行政の対応に対する国民の不満が背景にあった為、2003年(平成15年)5月30日に制定以来初めてといえる大改正が行われた。この改正と同時期に食品安全基本法が新たに制定された。</p> <p>改正前:(目的)第一条:この法律は、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的とする。</p> <p>改正後:(目的)第一条:この法律は、食品の安全性確保のために公衆衛生の見地から必要な規制その他の措置を講ずることにより、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、もって国民の健康と保護を図ることを目的とする。</p>		
<p><b>* 環境クイズ 答え *</b></p>		
<p>問題1 答え③ 解説:ニホンオオカミは、既に絶滅しており、トキは飼育下でのみ存続している野生絶滅種に指定されている。</p>		
<p>問題2 答え② 解説:森が効率的に二酸化炭素を吸収するためにも、約41%を占める人工林においては、生長した木を伐採し、新たな苗を植えるというサイクルを崩さないようにしていくことが大切です。</p>		
<p>問題3 答え③ 解説:英国とインドネシアとの合同調査によると、インドネシアで生産される木材の50%が違法伐採木材であるといわれている。</p>		
<p>問題4 答え② 解説:1949年(昭和24年)に国宝に指定されていた法隆寺の金堂壁画が火事にあうという出来事があり、これを機会に、文化財、天然記念物などの保護を強めることとなった。</p>		
<p>問題5 答え③ 解説:ミズは消費者ではなく、腐敗物などを分解する分解者。トンビはトカゲなどを食べるので、この中では、最も高次な消費者となる。</p>		
<p>問題6 答え② 解説:絶滅が74種、野生絶滅が4種、合計78種。過去400年に絶滅した哺乳類のうち45~50%は20世紀になってからと推測されている(WWFジャパン・『近・現代の絶滅』)。</p>		
<p>問題7 答え③ 解説:ビオトープによる自然復元運動は、1970年代にドイツから始まった。ビオトープとは、生物(Bio)がありのままに生息活動する場所(Top)という意味の合成されたドイツ語です。本来は、自然環境そのものがビオトープなのですが、生き物が住みにくい都市部などで人間によって再構成された自然環境を特にビオトープというようです。例えば、都市などで生物の住まい場所を確保したり、里山を保全したり、一定範囲の生態系の急変をある時点の状態までに復元するのもビオトープです。</p>		
<p>問題8 答え① 解説:琵琶湖名産の鮒寿司は、ニゴロブナというフナの種類だが、外来種のブラックバスに襲われたり、産卵場所のヨシが減ったりして、フナの数が増えているという。</p>		
<p>問題9 答え③ 解説:富士山は世界遺産に登録されていない。</p>		
<p>問題10 答え③ 解説:奄美大島の開発を食い止めるために、アマミノクロウサギのほか、オオトラツグミ、ルリカケス、アマミヤマシギなどの貴重生物が原告となり、『アマミノクロウサギ』裁判として大きな話題を呼んだ。</p>		
<p>問題11 答え② 解説:日本の国立公園の面積は、206万1040ヘクタールで、国土面積に対する割合は5.4%を占めている(環境省『自然公園面積総括表』)。</p>		